

見どころ案内

ススキ (イネ科)

日本全国に分布し、秋の七草のひとつにも数えられています。かつてはチガヤやスゲなどと纏められて「茅(かや)」とも呼ばれ、屋根の材料や家畜の餌に使用されていました。十五夜で飾ったり、諺に使われたりと、身近な植物のひとつです。

秋咲きバラ (バラ科)

秋バラが見頃です。春に比べて花の数は少なくなりますが、花の色が濃くなり、香りも強くなる傾向があります。また、気温も低いので長い間バラを楽しむことができます。

秋の洋ラン展示

今回の植物公園のテーマ展示は「ざんねんなラン・展」美しいランのイメージを覆すようなトリビアをイラスト入りで紹介。愛好家が丹精込めて栽培したランもご覧ください。

アリストロキア・

トリカウダタ

(ウマノスズクサ科)

メキシコ原産の小低木。花卉のように見えるのは萼(がく)で、その先端は3本の長いヒモ状になっています。特異な花形は、見方によってはイカや異星人のようにも見えます。

アルテルナンテラ (ヒユ科)

カラーリーフの代表的な植物です。花壇の縁取りや寄せ植えに多用されます。和名はモヨウビユ。中～南米原産で、現地では多年草ですが、霜に当たると枯れるので1年草扱いをします。

チョウセンノギク

(キク科)

日当たりの良い岩場などに生育します。その名のとおり、朝鮮半島や中国北部に自生しています。日本でも長崎県や鹿児島県に生育しています。

展示会のご案内

- ◇展示資料館 1F (10/19~12/24)
- 特別企画 種子の不思議展
- ◇展示温室 (10/26~11/4)
- 秋の洋ラン展
- ◇屋外展示場 (10/26~11/10)
- キク展
- ◇大温室前 (10/26~11/4)
- ハンギングバスケット作品展
- ◇カスケード (10/26~11/4)
- ガーデニングコンテスト作品展

コスモス (キク科)

メキシコ原産の一年草で、日本には明治初期に本格的に広まりました。明治後期には全国に普及し、現在では秋を代表する花の一つになっています。花の迷路ではピンク、白、マゼンタ等の花が満開です。4日に摘み取りをします。

キク展

友好都市である中国重慶市から寄贈されたキクを約50品種110鉢展示。日本のキクには見られない花形や花色のものもあり、必見です。

ダリア (キク科)

花が牡丹に似ているので、テンジクボタンとも呼ばれます。メキシコの高原地帯の原産で、夏の暑さは苦手です。地下部はサツマイモ様の塊根ですが、耐寒性はなく花後に掘りあげが必要です。

特別企画展 種子の不思議展

多彩な種子の秘密を実物やパネルを使って紹介します。種子が飛ぶ様子やひつつき虫のダーツなどが体験できます。

